日耳鼻医会FAXニュース　NO 107

平成17年10月12日　発行　(特) 日本耳鼻咽喉科医会　E-mail　jimu@jenti.or.jp　HP http://www.jenti.or.jp
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8　全医協連会館5F　FAX　03-5524-5228　TEL　03-5524-5230

第30回記念フォーラム
特別講演要旨

実地医家は米国型医療制度改革をどのように乗り切るのか

講師　石川　義弘 先生　（横浜市立大学大学院医学研究科循環制御医学・
ニュージャージー州立大学医学部循環器内科）

郵政民営化の次は医療改革に取り組むと言っております。その医療改革を推進するのはアメリカの資本であります。株式会社の参入、混合診療の解禁、そして民間保険の導入、まさにアメリカのための医療改革といっても過言ではありません。

では、アメリカ型の医療とはどういうものでしょうか。

アメリカは訴訟社会であり、「医者がいなくなる」、タイム誌の表紙にこんな言葉が載る事態に陥っています。この医療過誤訴訟のために掛ける保険が非常に高いわけで、日医の損害賠償保険の掛け金は年間数万円ですが、アメリカでは平均で脳外科は年間 900 万円、一般外科医で 500 万円。高いところでは年間 3000 万円近いところもあるそうです。保険の掛け金が余りにも高いために医院の経営が出来なくなって閉院せざるを得なくなっている事例もあります。現実に地域から産婦人科医がいなくなり、出産のために何十キロも走らないといけないという話もあるそうです。日本でも弁護士を増やそうという社会の要求もあり、早晩訴訟社会になるということを認識すべきでしょう。

次に医療保険制度でありますが、日本は国が主体となって医療保険を担っており、何らかの形で国民は全て健康保険に加入している所謂国民皆保険制度であります。しかしアメリカは企業がそれを担っています。民間保険に約６割が加入、政府が絡んでいる低所得者層のためのメディケア、メディケイドが２割、そして２割の 6000 万人もいると言われる無保険者がいます。一番収入のない人が一番負担しないといけない仕組みになっています。また、保険に加入していても、加入している保険の種類によって受けられる医療も限られているのは良くご存知と思います。

日本の医療費は 30 兆円で高い高いと言われるが何を基準にして高いというのでしょうか。葬式産業は 15 兆円市場、外食産業 28 兆円（パチンコ業界は 30 兆円）です。これらと比較して高いといえるのでしょうか。この議論が全然なされてないと思います。

またアメリカの医療費は非常に高額です。盲腸は日本では約 37 万円、ニュウヨークでは１日で 240 万円。日本の診療所では外来再診では 730 円、アメリカの良い保険では１万円です。アメリカで破産した人の理由の半分は医療費が払えなかったからと言われています。

アメリカでは、医療費がかかるのは、患者が医者にかかるからコストがかかる。そして患者を治療するからコストがかかる。また医者が治療するから高くなる。医者にさせなければ良いという理屈です。当然民間の保険会社は利益が大事ですから医療費がかからないようにします。その為にどうするか。患者が医者にかからないようにする、医者が治療しないようにする、医者でなくて看護師に治療させる。これがアメリカ型の医療です。

これではいけないと、前クリントン大統領のヒラリー夫人は日本型の保険制度を導入仕様としましたが、廃案になってしまいました。既にアメリカは今の医療制度には欠陥があるとアメリカ自身が認めているのです。

即ちアメリカ型医療制度では、医療は商品であり、良いお客さんには最高のサービスを提供するのです。これは決して悪いことではなく、お金持ちであれば世界で最高の医療が受けられるようになっているのです。しかしお金が無ければ入っている保険に見合った医療しか受けられないのです。アメリカに駐在した人が日本に戻ってきて「アメリカは医療の質も、サービスも良いよ。どうして日本では出来ないのか」と言いますが、勿論それは会社が高い保険に入っているからで、彼にはそれが分かっていないのです。

アメリカでは医療はお金であり、営利追求の手段であり、営利を追求して良いという国民のコンセンサスを得ています。アメリカではお金が儲かるから医者になるのが当たり前でありますが、日本では結果としてお金が儲かったらよいと言うのが誰もが一致した考えであろうと思います。ここに意識の大きな違いがあります。日本で株式会社が認められたと言うことは、医療を使って金儲けして良いんだというお墨付きが出たと言わざるをえません。そして市場主義経済下では企業は競って優良顧客の開拓に努めます。即ち、今までは、混合診療になると健康保険のきかない進んだ医療も受けられる、薬も使える。株式会社になると良いサービスを受けられるなど、患者側からの観点から良い点だけ報じられていますが、逆に企業の側からみるとどうでしょう。

お金がある患者は良い顧客、お金がない患者は不良顧客、企業が逆に患者を選択するのです。お金が無ければ希望する医療が受けられなくなることが十分に予想されます。日本ではこのことはマスコミも政府も誰も言いません。こうなるとすぐに今の世界に冠たる日本の医療制度が崩壊するのは眼に見えています。

いつ、何処でも、どんな病院でも、日本では保険証１枚で自由にかかれます。しかもそれが全て保険で賄われている。日本では当たり前のことと取られているが、これは世界から見ると非常に恵まれた制度と思います。

今後どのような形で医療改革が行われるか、注意深く見守る必要があります。

（注‘ パチンコ業界は 30 兆円 ’ は日耳鼻医会が追加しました）